

仲間広がる情報紙に

年4回
発行へ 市民団体が編集集会議

浜松市の中心市街地
で共生社会実現を試み
ちまた会議」が今年、



情報紙の内容を話し合う浜松ちまた会議
のメンバー＝浜松市中区

新たに地域情報紙を発行する。福祉、アート、まちづくりに関わる15人ほどの仲間が18日夜、中区で初の編集集

ある「ネイバーフッドシティー」を目指し、シンポジウムや意見交換会を重ねて会員の輪を広げている。

議を開いた。まちなかで活躍するユニークな人々を紹介し、仲間と出会える中心街の形成を目指す。

情報紙は年4回ほど発行し、人に焦点を当てた記事を中心に構成して、仲間づくりのきっかけとなる話題を提供する。誰もが関われるウェブサイトも立ち

ちまた会議は同市で障害者の表現活動に取り組むNPO法人クリエイティブサポートレツツが一昨年、多業種の仲間呼びかけて結成した。徒歩20分圏内に仲間がいて居場所が

上げる。同法人の久保田瑛さんは「さまざまな立場の人とより良い中心街を考えるためのメディアを作っていきたい」と話した。